

▶自作のいけ花を眺める岡さん



明るく優しい地域の人気者

岡スミ子さんは大正11年3月8日に5人兄妹の4人目として、現在の北上町十三浜追波に生まれまされた。22歳の時に同じ北上に住んでいた忠七さんと結婚し、子が4人、孫は8人、ひ孫は8人います。忠七さんは3年前に亡くなり、現在は自宅に4人暮らしです。

デイサービスでは、利用者の皆さんと一緒にいけ花等も楽しんでいきます。また近所の人たちと、のんびりと「お茶っこ飲み」をするのも楽しみのひとつです。岡さんに健康のひけつを尋ねると「規則正しく生活すること、好き嫌いをなく食べること。そしてよくよしななことです」といいます。家族の皆さんは「いつまでも変わらない、ニコニコ笑顔のおばあちゃんです」と話していました。



岡スミ子さん 92歳
(北上地区・橋浦)

みんなのお場

届いたお手紙からみんなのおたより紹介



何げない日常にありがとう

私は毎日、朝起きるとすぐに仏壇のお水と花瓶の水を取り替えてご先祖様に手を合わせています。大震災の時には仏壇からこの花瓶が落ち、部屋中水浸しになりパニックでした。それ以来、地震があると花瓶を

しっかり押さえています。でも、こうした普通の生活ができるのはご先祖様のおかげと感じています。こんなこともありました。震災の津波で近くの小学校に避難し、廊下に座り込んでいた時のことでした。

た。私の前を、小学3年生か4年生位の男の子が「おなかすいたなあ!!」と大声を出しながら通り過ぎて行きました。私にアめの一つでも持っていればあげることができたのに。それ以来、私はあめ玉の袋を毎日持ち歩いています。

「本当にありがとう!」今の生活ができることにありがとうと言いたいです!そしてこれからもずっと私の日課としてご先祖様に手を合わせ続けたいと思います。今年も家族の健康と幸せを願いつつーありがとうございます!」



(阿部トシコ)



石巻弁に見られる

オノマトペ

石巻市文化財保護委員

谷川 正明

オノマトペとは、擬声語や擬音語・擬態語の総称で、石巻弁の表現力の豊かさの、大きな要因となっています。

一つの言葉が、発音も意味もどんな変化・発展してゆき、微妙なニュアンスを表わす面白い言葉です。

無数にありますので、その一部を紹介します。
*アフラアフラ、アフラアフラ、アフラトフラ:
疲れてふらふらしている状態を表します。
「アフラアフラって、使いものになんねば」
意味が広がり、怠けている場合にも使います。
「アフラアフラってばりいねで、さっさと働け」
*イガイガ、イガライガラ、イガラモガラ:
何か刺さって、ちくちくする様子が原義。
「喉、イガイガって、ひでがす」
対人関係においても用いるようになります。
「いっつもイガラモガラって、文句ばり語ってる」
*ペンペン、ペン、ペンツ、ペンラット:
物が減っていく様が原義です。
「葉っぱ、茹でたらペンツになった」
人間が元気がない様子にも使うようになります。
「腹ペソットなる」先生の前後ではペソットなった」

言葉は、時代とともにどんどん変化してゆき、消長してゆきます。その中でも、名詞や動詞・形容詞等は、丁寧に調査され、記録に残されてきました。
一方でオノマトペは、これまであまり重要視されてきませんでした。また、消長・変化も激しく、記録には残りにくい言葉です。しかし、会話をする中では欠かすことができない、石巻弁を彩る重要な言葉でもあります。

◆投稿募集

皆さんからの投稿をお待ちしています。テーマに沿ったあなたのとおきの話をお寄せください。
テーマ 「ありがとう」
日常生活の中で、皆さんの「ありがとう」に関する逸話(エピソード)をお聞かせください。
字数 400字以内
投稿方法 住所、氏名、年齢、電話番号を明記し郵送またはEメールにて秘書広報課までお送りください。
掲載の場合はペンネームを可能としますので、ペンネーム希望の場合はその旨明記してください。
注意事項 公序良俗に反するもの等やスペースの関係上、投稿いただいたもの全てを掲載できるものではありません。また、字数等の関係で内容を調整させていただくことがあります。
秘書広報課(内線4024) 〒986-8501(住所不要)
Eメール ispubinfo@city.ishinomaki.lg.jp

まちの話題

石巻地区

旧石巻ハリストス正教会 教会堂を一般公開



2月22日(土)・23日(日) 中瀬

震災で大きな被害を受けた国内最古の木造教会堂が、解体前に公開されました。建物は流出しなかったものの、津波の直撃で壁や床の一部に穴が開き、参加者は津波の威力を感じながらも、原形を留めた様子に感心していました。市の文化財である教会堂は解体後、復元される予定です。

石巻地区

3月15日(土)
石巻中学校体育館

松山バレエ団が感動の舞台



市民の皆さんを本物の芸術で勇気づけようと、世界的なバレリーナの森下洋子さん率いる松山バレエ団が「白鳥の湖」の特別公演を行い、約1,300人が鑑賞しました。体育館は豪華なセットで本格的な劇場に変わり、団員たちが優雅に舞いました。約1時間半の舞台が終わると、感動した市民の皆さんから大きな拍手が送られました。